

感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）

ウイルス性胃腸炎は小型球形ウイルス（SRSV）・ロタウイルス・腸管アデノウイルス(AD40/41)などを原因とする、乳幼児の間で冬季に流行する胃腸炎であるが、近年、一年を通してみられることも多くなってきている。特に、保育園や小学校での集団感染は春先と初秋に発生する傾向にある。

下図に2001年、2002年に感染症発生動向調査により県内医療機関等で採取された感染性胃腸炎の検体数と検出ウイルスについて示した。例年、50検体ほどが採取されているが、患者情報とは連動していないことも多い。2001年はロタ、SRSVが同数検出されているが、検出時期はロタが2～5月と11月、SRSVが6月と11月であった。また、腸管アデノウイルスが10月、12月に検出された。

2002年の特徴としてはエコーウイルス13型が検出されていることで、同ウイルスによる無菌性髄膜炎の流行時期に重なっている。11月、12月はSRSVが検出されている。12月に入り、SRSVの流行が大きくなってきている。予防対策としては家族内の二次感染に注意する必要がある。ロタウイルスやSRSVは嘔吐物からの感染も示唆されているので、糞便だけでなく嘔吐物の取り扱いにも注意が必要である。

2001年・2002年のウイルス検出状況

